

デザインと環境で世界をリードする

高橋カーテンウォール工業株式会社

2022年12月期

決算説明会資料

代表取締役社長：高橋 武治

2023年2月10日

連結決算概要 (売上高・営業利益推移)

	2021年度					2022年度	
			2020年進行分	2021年本来分			
売上高	12,233		4,240	7,993		7,530	
営業利益	1,985	16.2%		1,101	13.8%	170	2.3%
経常利益	2,112	17.3%		1,228	15.4%	248	3.3%
当期純利益	1,402	11.5%		1,096	13.7%	151	2.0%

2021年から、工事進行基準を適用しているため、売上高及び各利益が大きく増加していた。

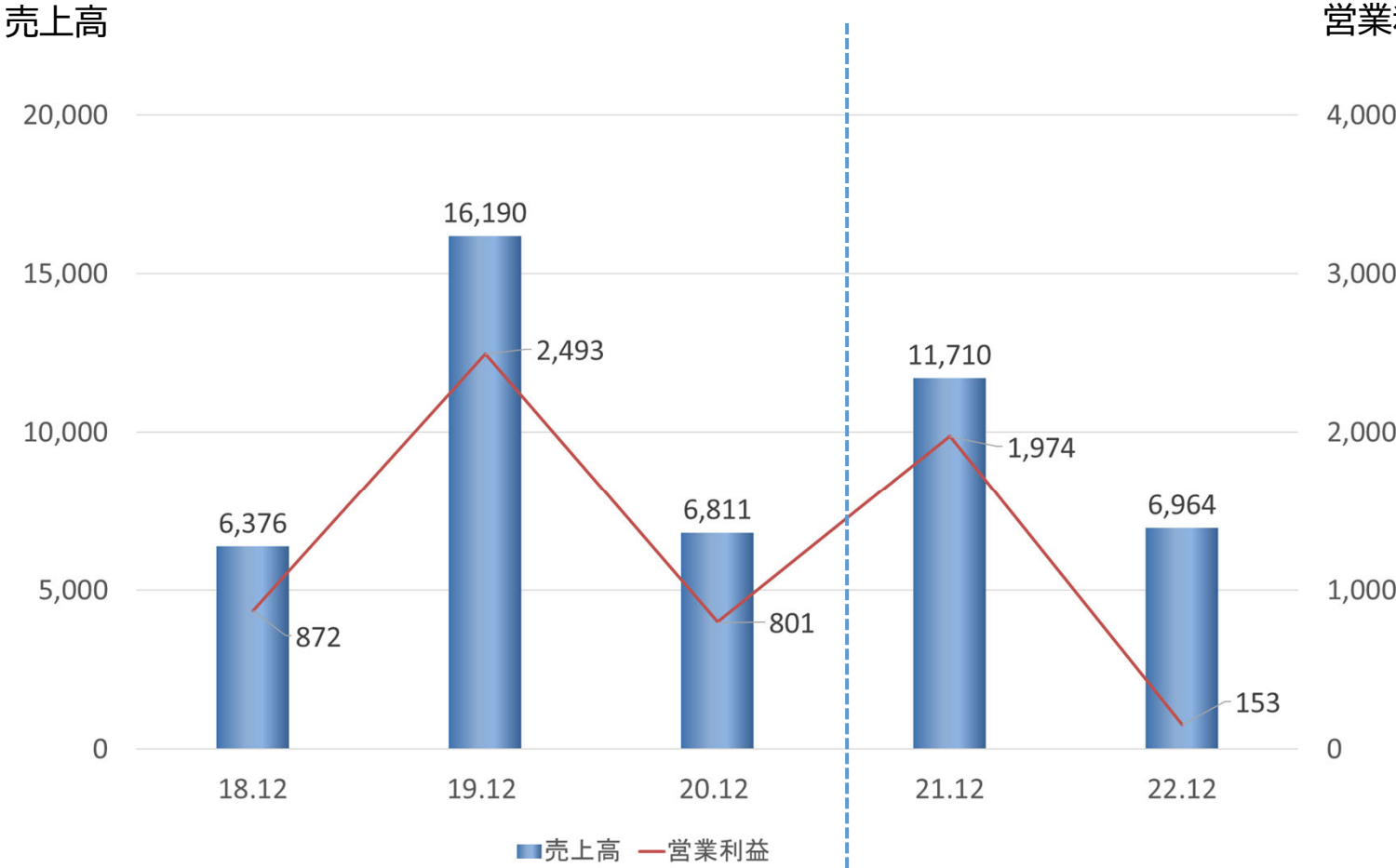
2022年度の総括

・本来値比較で約9億円の利益減

- 受注時の採算性が悪化したことにより約3億円の利益減
- 売上高4.4億円の売上減少により、約1億円の利益減
- 原材料高騰による利益減
当初想定より、鋼材やセメント材料などの原材料費が約3億円高騰。
- 現場工程の乱れによる効率の悪化
一部物件の現場工程に乱れが生じたため、
他の案件の工程を圧迫し、約1億円のコスト増。
- ヤード整備、光熱費の高騰などより固定費 約1億円の増

PC事業 セグメント別売上高・利益

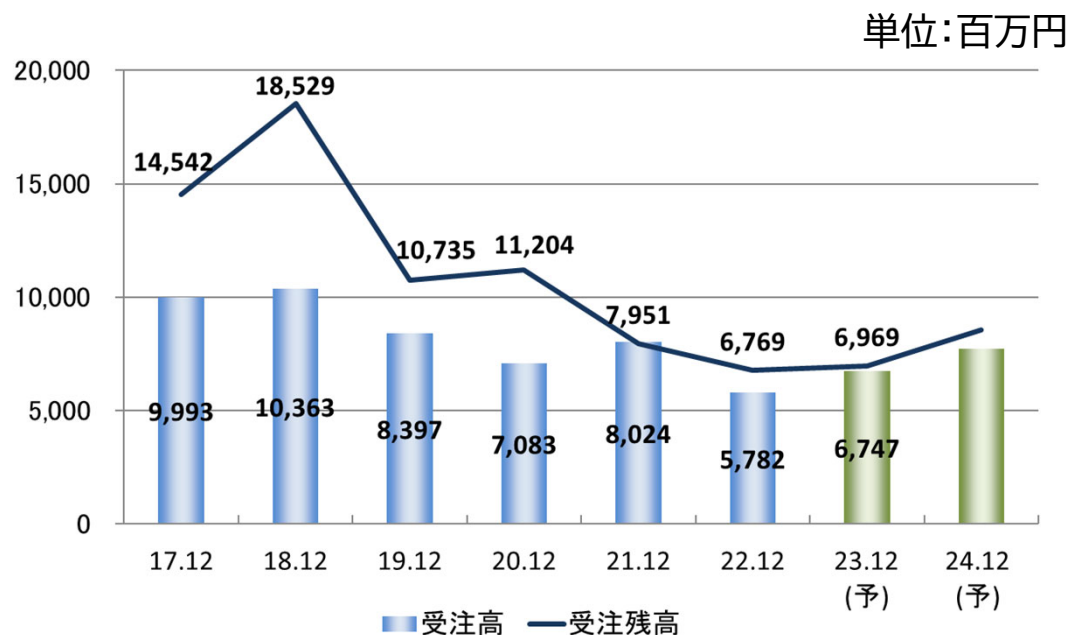
単位:百万円
営業利益



← 工事完成基準 → 工事進行基準

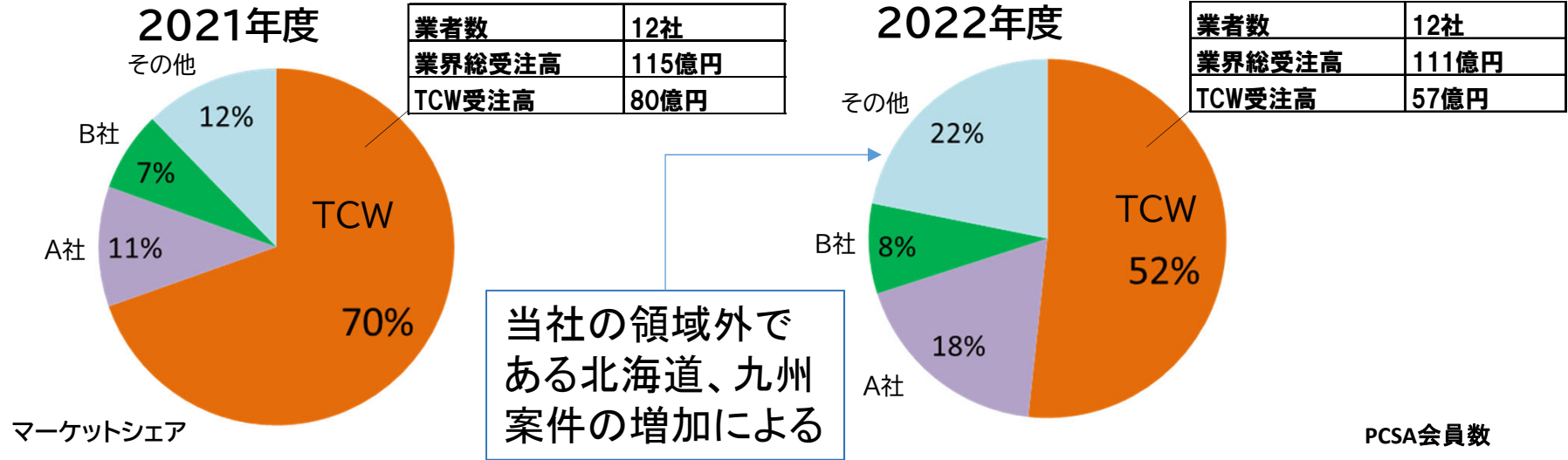
PC事業 受注及び受注残高推移

- ゼネコン各社は、24年より本格稼働となる働き方改革に備え、受注量の調整傾向、これに伴い物件数が減少。
- 超高層ではPC版の採用は低層に限られる物件の割合が増えている。難易度上昇傾向なため、受注単価は上昇。



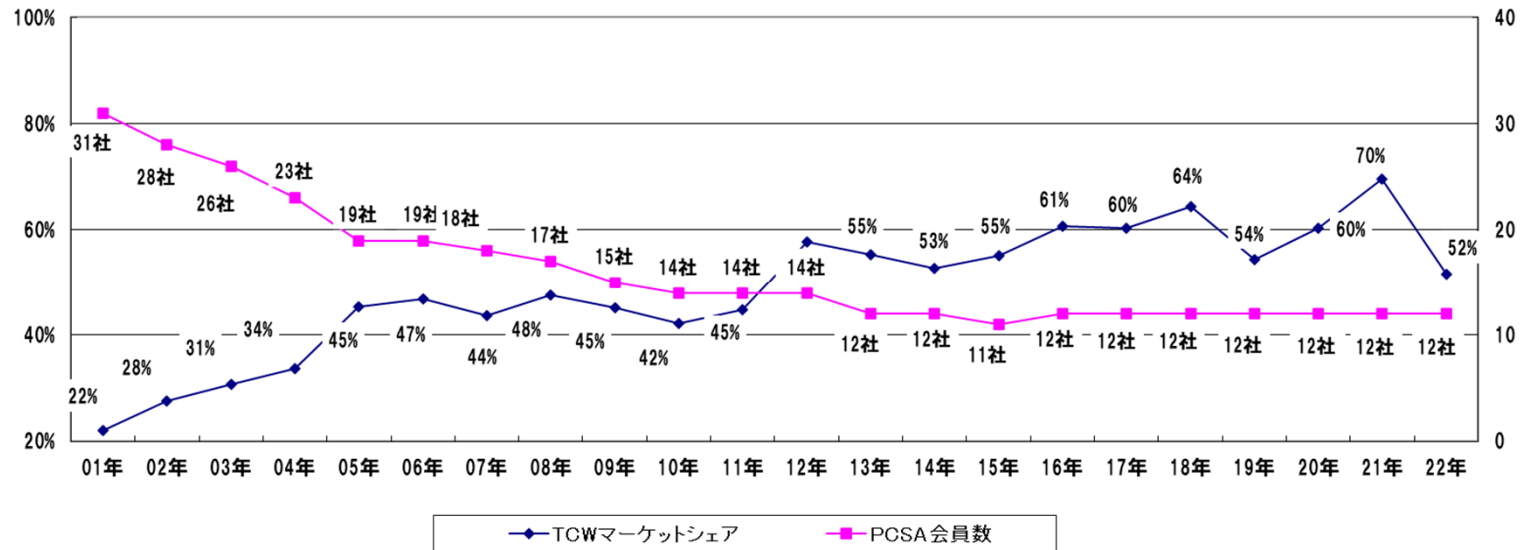
今年、来年は
回復の見込み

TCW全国マーケットシェア(2021-2022年度)



マーケットシェア

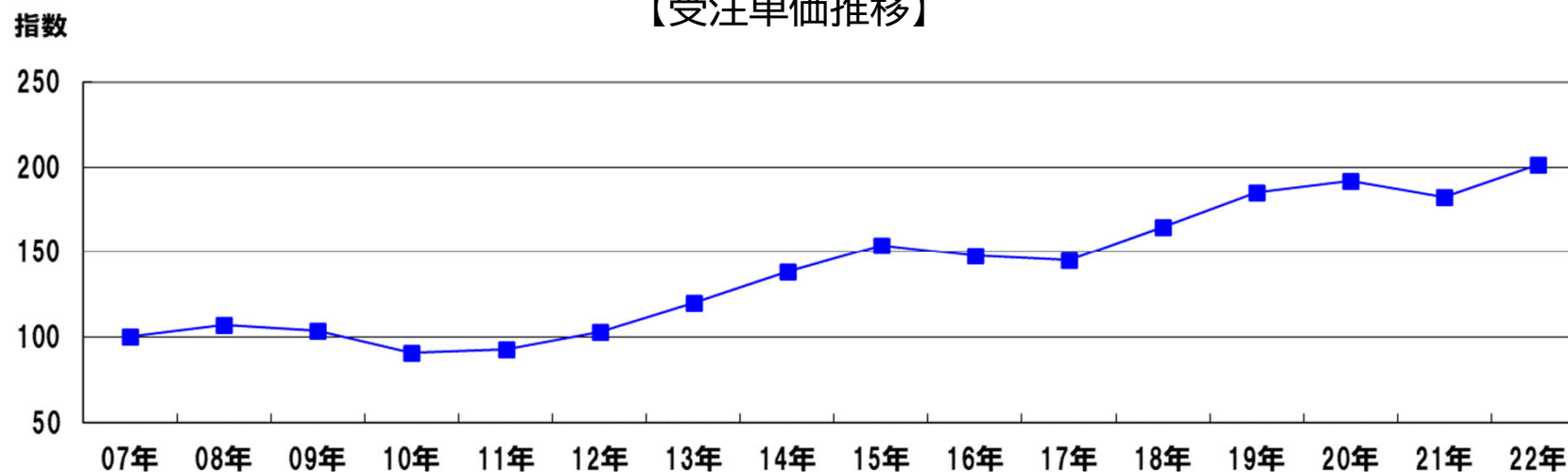
PCSA会員数



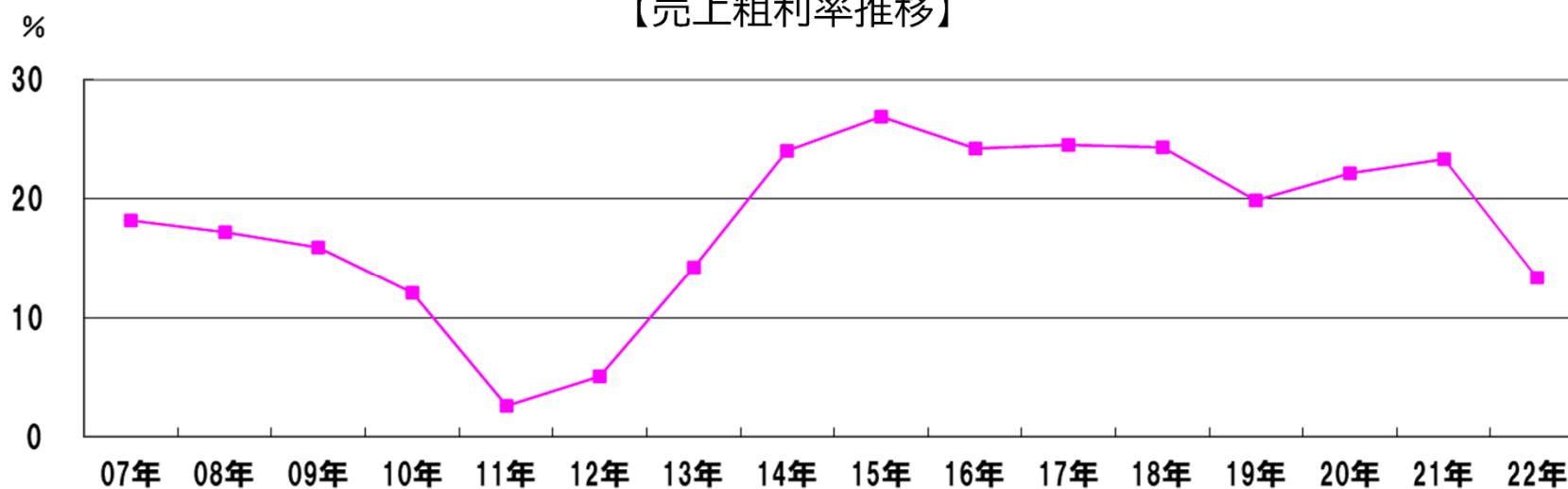
※ PCSAマーケティング部会集計値(但し、2015年度は一部ヒアリング数字を含む)

TCW受注単価・売上粗利率推移

【受注単価推移】



【売上粗利率推移】



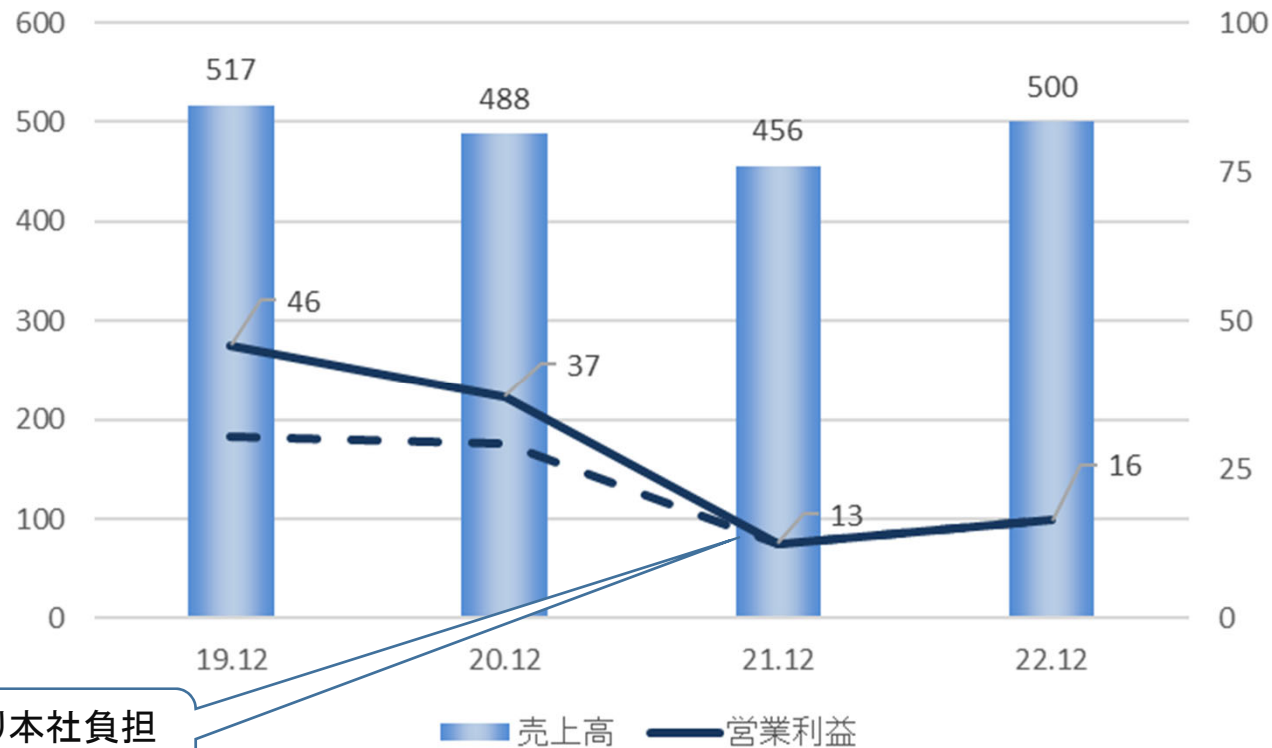
アクア事業 売上高・利益



・前期比で増収、増益となった。

売上高

単位:百万円
営業利益

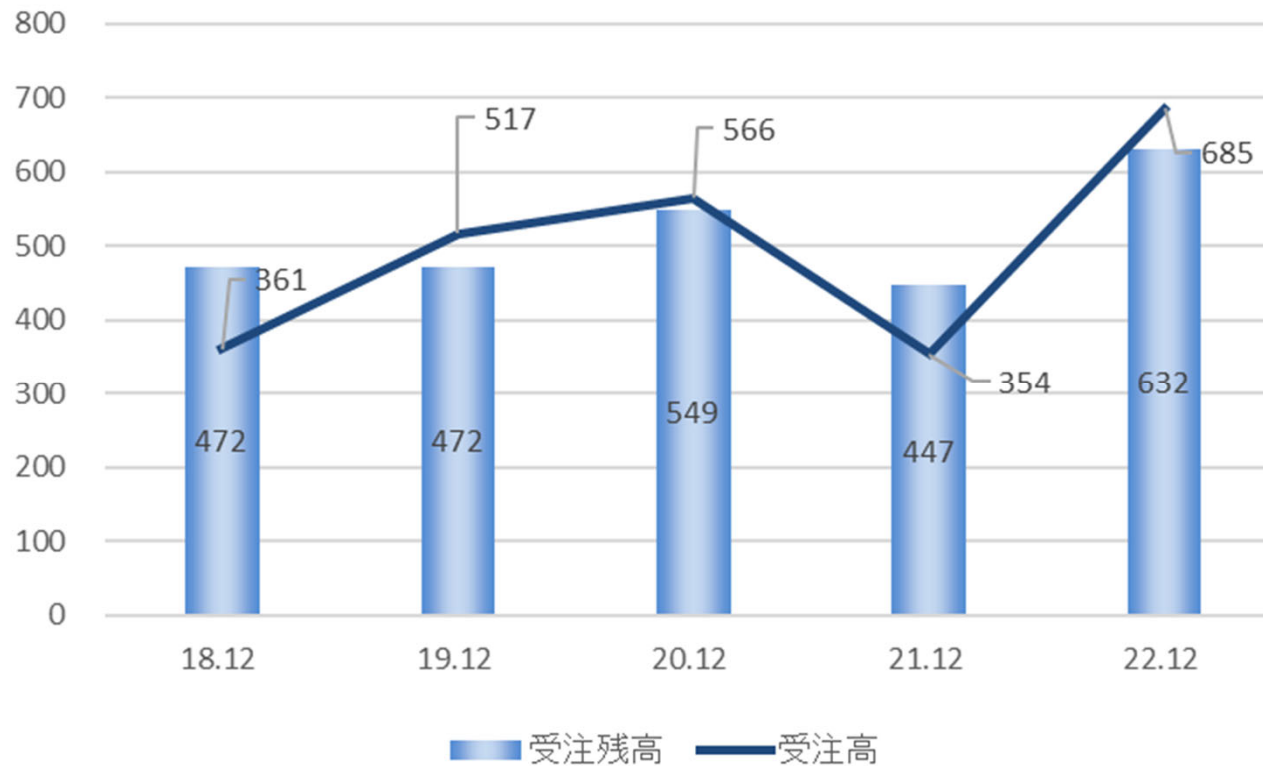


2021年度より本社負担金24百万円を計上

アクア事業 受注高・受注残

- ・人員増強の効果がでてきた
- ・他社が撤退した製品の保守を引き継ぎ、保守メンテナンスが増加傾向

単位:百万円

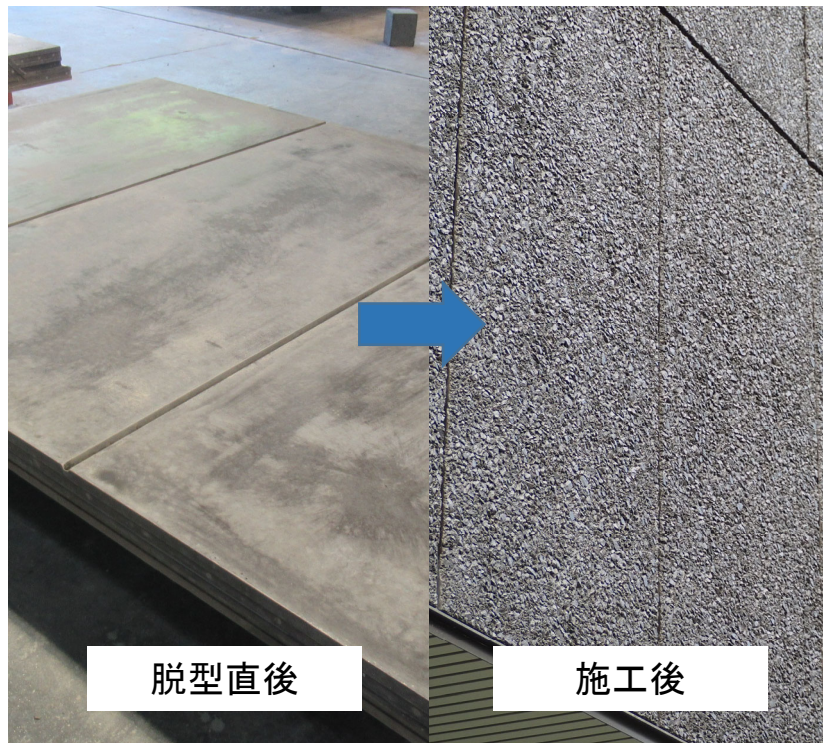


新たなトレンド

- ・ 外壁材として比較的安価なPCカーテンウォールを検討する案件が出てきている
- ・ 脱炭素化の社会的要請が、より強まっている。

デザイン(多彩な仕上げ・形状)

当社製品のアーキテクチュラルコンクリートを利用し、
デザイン力があるパートナーと共同で新しい表現の外壁を制作



ウォータージェット仕上げ



化粧型枠+木目調特殊塗装

デザイン(多彩な仕上げ・形状)



結城工場で開発中の新仕上げ

環境に配慮したPC版

○ CO₂固定化PCカーテンウォールの開発 NEDOの事業であるCUCO（クーコ）に参画

2030年までにCO₂排出量の削減と、CO₂の固定量を増大させたカーボンネガティブコンクリートの製品化を目指します。



日経アーキテクチュア（1/26発行）に掲載

○ 炭素固定性を有する海洋生物殻廃棄物を 用いたPC部材の開発

ホタテ貝は、海水中のCO₂を吸収しながら成長しており、毎年大量に貝殻が廃棄されています。この貝殻を細かく砕き、コンクリートの材料である砂の代わりにすることで、CO₂が固着されるコンクリート部材となります。

環境に配慮したPC版

○ 繊維素材を活用してCO₂削減に寄与する商品の開発

サステナビリティの観点から、建設に要するエネルギーの削減は急務であるため、軽量化をキーワードに、従来のPCカーテンウォール性能はそのままに部材を軽くする開発に取り組んでいます。

繊維補強コンクリートを研究している大学と共同で進めております。

コンクリートの種類	普通コンクリート PCa版	開発品
パネル重量 (kg/m ²)	360~480	130~230
版厚 (mm)	t=150~200	t=50~ +版裏補強

目標となるスペック

環境に配慮したPC版

庇形式のPC版は、眺望性を維持しつつ、日射を調整することができます。太陽の高い夏は日を遮り、冬はその逆に日を取り込むことができ、ビル省力化の助けになります。



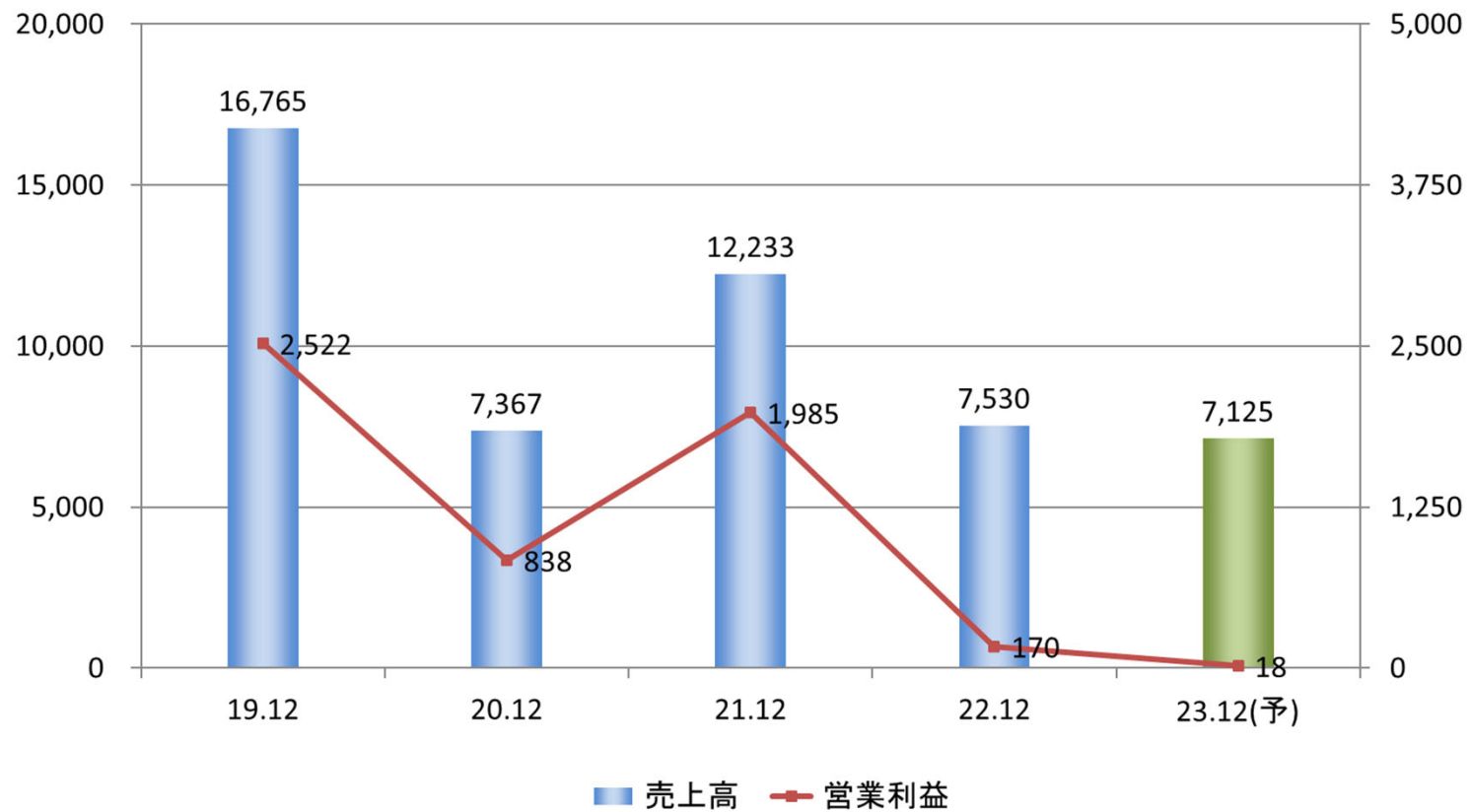
虎ノ門ヒルズ ビジネスタワー



某物件 ダブル形状

2023年度 連結通期予測

単位:百万円



2023年度 連結通期予測

【単位：百万円】

	2022.12 決算	2023.12 通期予測	上期	下期	通期 増減額	通期 増減率
売上高	7,530	7,125	3,720	3,405	△ 405	△ 5.4%
営業利益	170	18	12	6	△ 152	△ 89.4%
営業利益率	2.3%	0.3%	0.3%	0.2%		
経常利益	248	79	43	36	△ 169	△ 68.1%
経常利益率	3.3%	1.1%	1.2%	1.1%		
当期純利益	151	43	24	19	△ 108	△ 71.5%
当期純利益率	2.0%	0.6%	0.6%	0.6%		

2023年度 大幅な減益の要因

- 工場稼働率の低下
関東圏の大型プロジェクト端境期
中型物件見当たらず
- 受注競争の激化や原材料の高騰により
粗利率の低下
- 新プラント稼働による減価償却の増大

2024年以降の展望

- ・大型プロジェクト始動による受注増、工場稼働率の上昇が見込まれる
- ・新プラントにより提案力の向上
- ・減価償却費は2026年度より大幅に減少見込み

配当の基本方針と推移

厳しい経営環境ではありますが、年間20円配当を維持する予定

年度	配当金額	配当性向
2018年	配当 20円 (中間配当10円+期末配当 10円)	24.4%
2019年	配当 30円 (中間配当15円+期末配当 15円)	21.0%
2020年	配当 23円 (中間配当10円+期末配当 13円)	22.1%
2021年	配当 25円 (中間配当15円+期末配当 10円)	15.3%
2022年	配当 20円 (中間配当10円+期末配当 10円)	112.9%
2023年(予)	配当 20円 (中間配当10円+期末配当 10円)	396.3%

TCW

【見通しに関する注意事項】

本資料に掲載されている中で、下期の予測あるいは今後の見通し等が含まれていますが、実際の結果は様々な要因により記述内容と大きく異なる可能性があります。